

(様式第10)

25 福 井 大 第 1206 号
令 和 7 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人福井大学
学長 内 木 宏 延

福井大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒910-8507 福井県福井市文京3丁目9番1号
氏名	国立大学法人 福井大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

福井大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23号3番地
電話 (0776) 61 - 3111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科		有					
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器科	<input type="radio"/>	2消化器科	<input type="radio"/>	3循環器科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
<input type="radio"/>	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科	<input type="radio"/>	7内分泌内科	<input type="radio"/>	8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績							
腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、リウマチ科の診療内容は内科で提供している。 アレルギー疾患内科またはアレルギー科の診療内容は呼吸器科で提供している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
消化器外科、乳腺外科、内分泌外科の診療内容は外科で提供している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻いんこう科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						無	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	リハビリテーション科	2	形成外科	3	病理診断科	4		5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計	(単位:床)
41	0	0	0	559	600	

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	239	140	338.9
歯科医師	8	5	12.7
薬剤師	44	0	44
保健師	0	0	0
助産師	22	2	23.2
看護師	691	16	703
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	1	0	1
管理栄養士	11	0	11

職種	員数
看護補助者	41
理学療法士	16
作業療法士	6
視能訓練士	7
義肢装具士	0
臨床工学士	15
栄養士	1
歯科技工士	1
診療放射線技師	36

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	45
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	7	
その他の技術員	10	
事務職員	163	
その他の職員	44	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	36	眼科専門医	11
外科専門医	22	耳鼻咽喉科専門医	16
精神科専門医	7	放射線科専門医	7
小児科専門医	18	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	6	整形外科専門医	9
泌尿器科専門医	9	麻酔科専門医	9
産婦人科専門医	13	救急科専門医	14
		合計	187

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (藤枝 重治) 任命年月日 令和 7 年 4 月 1 日

平成30年4月～平成31年3月 医療安全管理責任者
 令和7年4月～現在 病院長 (医療安全管理委員会委員長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	484.0 人	5.8 人	489.8 人
1日当たり平均外来患者数	970.0 人	29.6 人	999.6 人
1日当たり平均調剤数	入院 853.0 剤	外来 35.4 剤	888.4 剤
必要医師数			109 人
必要歯科医師数			3 人
必要薬剤師数			17 人
必要(准)看護師数			280 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	183.52 m ²	鉄筋コンクリート	10 床	有	有	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	335.91 m ²	病床数	31 床	
	[移動式の場合]	台数	0 台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	50.82 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	225 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体検査自動化システム		
細菌検査室	68 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物分類同定分析装置		
病理検査室	125 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動染色装置、組織切片自動作製装置		
病理解剖室	55 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	バイオハザード対策用L型解剖台		
研究室	4,686 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	リアルタイム定量PCR装置		
講義室	357 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	426 人
図書室	1,861 m ²	鉄筋コンクリート	室数	21 室	蔵書数	141,943 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	88.7	%	逆紹介率	73.5	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		11,431		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,013		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,846		人
	D: 初診の患者の数		14,974		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
高村 博之	金沢医科大学病院 医療安全部長	○	医療に係る安全管理 に関する識見を有す る者	無	1
安川 繁博	福井県医師会副会長		医療に係る安全管理 に関する識見を有す る者	無	1
吉川 奈奈	杉原・きっかわ法律 事務所		法律に関する識見を 有する者	無	1
草桶 秀夫	前福井工業大学教授		医療を受ける者の立 場から意見を述べる ことができる者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 福井大学医学部附属病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	家族性不整脈症候群及び心筋症の遺伝子解析	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 家族性不整脈症候群及び心筋症患者の遺伝的背景を明らかにし、家族内保因者を同定することで心臓突然死の予防、さらに、遺伝子変異と臨床像の比較などの遺伝変異疾患発症に関する評価分析を行い、医学的診断ツール、検査ツールの開発に役立つ。			
医療技術名	術中腹腔内温熱化学療法(HIPEC)	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 大腸癌腹膜転移及び腹膜偽粘液腫を対象に治療を行っている。腹膜転移以外の切除不能因子の無い症例に対して、原発巣切除、可及的播種巣切除、リンパ節郭清等を行った後に、シスプラチン、エトポシド、マイトマイシンCを混和した生理食塩水を43℃に加温し、腹腔内を灌流している。通常の化学療法では効果がない症例でも、有効な治療効果が得られている。			
医療技術名	PET/MRI検査におけるFDGとFESの乳癌腫瘍描出能の比較	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 ホルモン受容体陽性の転移再発乳癌に対してエストロゲンをを用いたPET検査を施行し、ブドウ糖を用いたPET検査と比べ、乳癌腫瘍の描出に差があるか検討する。			
医療技術名	腹壁または後腹膜悪性腫瘍に対する根治的治療	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 腹壁または後腹膜悪性腫瘍は、内臓臓器に腫瘍が進展していることが多いため、単一診療科での治療は困難である。また、後腹膜には腫瘍進展に対するバリアが存在しないため、最初の手術で病変部を大きく切除することが重要である。整形外科では、外科、胸部外科、泌尿器科、形成外科などと密に協力して、根治的治療を行っている。			
医療技術名	悪性骨・軟部腫瘍に対する、術中体外放射線照射自家骨移植を用いた患肢温存手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 骨悪性腫瘍や軟部肉腫が骨に進展している場合、腫瘍と合併切除した骨に術中放射線照射を行い、腫瘍細胞を死滅させた後、その骨を再度骨欠損の再建に用いる。			
医療技術名	三次元動作分析装置VICONを用いた脊椎脊髄疾患の歩行解析	取扱患者数	10
当該医療技術の概要 頰椎・頰髄疾患を中心とした脊髄症を呈した患者の術前術後の歩行解析を行うことにより、各患者に応じたリハビリ設定や術後変化を捉えることができる。			
医療技術名	三次元動作分析装置VICONを用いた変形性関節症の歩行解析	取扱患者数	100
当該医療技術の概要 変形性股関節症や変形性膝関節症の術前患者の歩行解析を行うことにより、各患者に応じたリハビリ設定や術後変化を捉えることができる。			
医療技術名	側方進入椎体間固定(XLIF/OLIF)を用いた低侵襲脊椎手術	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 特別な開創器を用いることにより通常法よりも低侵襲に固定術や制動術を行なうことができる。			
医療技術名	腹腔内温熱化学療法(HIPEC)	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 再発卵巣癌に対し化学療法を行い腫瘍減量術と同時に腹腔内温熱化学療法を行う。			
医療技術名	[F-18]FES-PET/MRI	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 女性ホルモンのエストロゲン受容体(ER)をPETで画像化し、乳がんや子宮がん・肉腫等の診断に役立つ。			

医療技術名	[F-18]MK-6240-PET/MRI	取扱患者数	14
当該医療技術の概要			
アルツハイマー病の変性タウ脳内沈着を画像化し、アルツハイマー病の確定診断に役立つ。			
医療技術名	[F-18]FLT-PET/MRI	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
がんや血液疾患の細胞増殖能を判定する。			
医療技術名	[F-18]NaF-PET	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
転移性骨腫瘍やその他の骨腫瘍性疾患の描出。現在転移性骨腫瘍に対する医師主導治験を実施中である。			
医療技術名	[C-11]K-2 PET/MRI	取扱患者数	6
当該医療技術の概要			
神経精神疾患および神経変性疾患の脳内グルタミン酸受容体密度診断に用いる。現在治験の準備中である。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	14
取扱い患者数の合計(人)	213

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	パーチェット病	22
2	筋萎縮性側索硬化症	24	57	特発性拡張型心筋症	15
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	4
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	7	60	再生不良性貧血	20
6	パーキンソン病	97	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	1	63	特発性血小板減少性紫斑病	15
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	8
11	重症筋無力症	33	66	IgA 腎症	28
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	27
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	42	68	黄色靱帯骨化症	29
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	11	69	後縦靱帯骨化症	61
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	29
16	クローウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	43
17	多系統萎縮症	12	72	下垂体性ADH分泌異常症	11
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	22	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	6	74	下垂体性PRL分泌亢進症	2
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	3
21	ミトコンドリア病	9	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	27	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	12
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	39
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄炎	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	2
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	41	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	48
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	50
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	14
32	自己食空腔性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	4
34	神経線維腫症	23	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	16	90	網膜色素変性症	19
36	表皮水疱症	1	91	バンド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性胆管炎	2
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	10
40	高安動脈炎	7	95	自己免疫性肝炎	7
41	巨細胞性動脈炎	1	96	クローン病	56
42	結節性多発動脈炎	2	97	潰瘍性大腸炎	92
43	顕微鏡的多発血管炎	20	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	2	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	12	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	4	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	83	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	75	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	103	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	19	107	若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	15	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人発症スチル病	8	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
113	筋ジストロフィー	12	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	1	167	マルファン症候群	6
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシビタル・ホーン症候群	0
121	脳内鉄沈着神経変性症	0	171	ウィルソン病	2
122	脳表ヘモジデリン沈着症	4	172	低ホスファターゼ症	0
123	HTRA1関連脳小血管病	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー病	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	3	177	ジュベール症候群関連疾患	0
128	ピツカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鯉耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	3
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	2	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	1	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	4	208	修正大血管転位症	1
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	0

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	リンチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳髄黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	2	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モット症候群	0	267	高IgD症候群	1
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	4	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	23	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	11
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	4	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・レノネー・ウェーバー症候群	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	3	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
241	高チロシン血症1型	1	289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	7
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球形副鼻腔炎	46

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
308	進行性白質脳症	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
310	先天異常症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	326	大理石骨病	2
313	先天性肺静脈狭窄症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	328	前眼部形成異常	2
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMX1B関連腎症	0	329	無虹彩症	0
316	カルニチン回路異常症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0
317	三頭酵素欠損症	1	331	特発性多中心性キャッスルマン病	4
318	シトリン欠損症	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
			335	ネフロン癆	0
			336	家族性低 β リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0
			337	ホモシステニン尿症	0
			338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
			339	MECP2重複症候群	0
			340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	0
			341	TRPV4異常症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	105
合計患者数(人)	1,593

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・重症患者初期支援充実加算
・医療DX推進体制整備加算	・報告書管理体制加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科外来診療感染対策加算4	・ハイリスク分娩管理加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟:7対1入院基本料、入院栄養管理体制加算)	・呼吸ケアチーム加算
・特定機能病院入院基本料(精神病棟:13対1)	・後発医薬品使用体制加算1
・救急医療管理加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・超急性期脳卒中加算	・データ提出加算
・診療録管理体制加算1	・入退院支援加算
・医師事務作業補助体制加算1(20対1)	・認知症ケア加算
・急性期看護補助体制加算(25対1 看護補助者5割以上、夜間100対1、看護補助体制充実加算)	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・看護職員夜間配置加算	・精神疾患診療体制加算
・看護補助加算2	・精神科急性期医師配置加算
・療養環境加算	・排尿自立支援加算
・重症者等療養環境特別加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・無菌治療室管理加算1	・地域医療体制確保加算
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料2
・緩和ケア診療加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・精神科身体合併症管理加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・小児入院医療管理料3
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染対策向上加算1	
・患者サポート体制充実加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・ニコチン依存症管理料
・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・がん治療連携計画策定料
・糖尿病合併症管理料	・外来排尿自立指導料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ハイリスク妊産婦連携指導料1
・がん患者指導管理料イ	・ハイリスク妊産婦連携指導料2
・がん患者指導管理料ロ	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん患者指導管理料ハ	・こころの連携指導料(Ⅱ)
・がん患者指導管理料ニ	・薬剤管理指導料
・外来緩和ケア管理料	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・医療機器安全管理料1
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・医療機器安全管理料2
・糖尿病透析予防指導管理料	・医療機器安全管理料(歯科)
・小児運動器疾患指導管理料	・精神科退院時共同指導料1及び2
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・歯科治療時医療管理料
・婦人科特定疾患治療管理料	・救急患者連携搬送料
・腎代替療法指導管理料	・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・一般不妊治療管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・生殖補助医療管理料1	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・二次性骨折予防継続管理料1	・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
・二次性骨折予防継続管理料3	・染色体検査の注2に規定する基準
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・院内トリアージ実施料	・BRCA1/2遺伝子検査
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来放射線照射診療料	・先天性代謝異常症検査
・外来腫瘍化学療法診療料1	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・CT撮影及びMRI撮影
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)	・冠動脈CT撮影加算
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)	・心臓MRI撮影加算
・検体検査管理加算(IV)	・乳房MRI撮影加算
・国際標準検査管理加算	・小児鎮静下MRI撮影加算
・遺伝カウンセリング加算	・頭部MRI撮影加算
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・外来化学療法加算1
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・無菌製剤処理料
・胎児心エコー法	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・ヘッドアップティルト試験	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・神経学的検査	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・補聴器適合検査	・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下機能回復体制加算2
・ロービジョン検査判断料	・がん患者リハビリテーション料
・コンタクトレンズ検査料1	・歯科口腔リハビリテーション料2
・小児食物アレルギー負荷検査	・通院・在宅精神療法の注8に規定する療養生活継続支援加算
・内服・点滴誘発試験	・通院・在宅精神療法の注10に規定する児童思春期支援指導加算
・経頸静脈的肝生検	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・医療保護入院等診療料
・経気管支凍結生検法	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
・精密触覚機能検査	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
・画像診断管理加算4	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・多血小板血漿処置
・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・人工腎臓
・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)	・導入期加算3及び腎代替療法実績加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・網膜再建術
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・人工中耳植込術
・ストーマ合併症加算	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・手術用顕微鏡加算	・耳管用補綴材挿入術
・歯科技工加算1及び2	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。)
・皮膚悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・四肢・躯幹部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・緊急整復固定加算及び緊急挿入加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・椎間板内酵素注入療法	・乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・角結膜悪性腫瘍切除術	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・羊膜移植術	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・胸腔鏡下弁形成術
・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))	・胸腔鏡下弁置換術
・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	・腹腔鏡下痔腫瘍摘出術
・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	・腹腔鏡下痔体尾部腫瘍切除術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・同種死体腎移植術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・生体腎移植術
・補助人工心臓	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・経皮的下肢動脈形成術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等	・尿道狭窄グラフト再建術
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・精巣内精子採取術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下仙骨腔固定術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・体外衝撃波胆石破碎術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・腹腔鏡下肝切除術	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・体外衝撃波膀胱石破碎術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・胎児輸血術及び臍帯穿刺	・画像誘導密封小線源治療加算
・体外式膜型人工肺管理料	・保険医療機関間の連携による病理診断
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1	・病理診断管理加算2
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	・看護職員処遇改善評価料60
・輸血管管理料 I	・外来・在宅ベースアップ評価料(I)
・貯血式自己血輸血管管理体制加算	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料(I)
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・入院ベースアップ評価料75
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・歯根端切除手術の注3	
・レーザー機器加算	
・麻酔管理料(I)	
・麻酔管理料(II)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・一回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療(IGRT)	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・定位放射線治療	
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算(動体追尾法)(その他のもの)	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	白血病細胞のDNA修復機能と内因性アポトーシス経路を標的とする耐性白血病の新規救済治療戦略の確立	山内 高弘	内科学(1)	300,000	補 一般社団法人日本血液学会
2	新規薬物送達システムとエピゲノム制御による耐性急性白血病の新規救済治療の確立	山内 高弘	内科学(1)	1,100,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
3	メタボローム解析による腫瘍崩壊症候群の新規バイオマーカーの同定	森田 美穂子	内科学(1)	600,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
4	がん終末期医療における時間毒性/経済毒性/家族の心理的負担のリアルワールド解析	新家 裕朗	血液・腫瘍内科	2,000,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
5	肝がん細胞の進化による転移過程を司るドライバー遺伝子の同定	中本 安成	消化器内科学	3,900,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
6	蛍光多重免疫染色法を用いた循環腫瘍細胞検出精度向上による新規肝がん診断法の開発	高橋 和人	消化器内科	1,900,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
7	肝がん免疫機構を制御するエイコサノイドを標的とした新規免疫治療戦略の開発	野阪 拓人	消化器内科	1,100,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
8	栄養素によるインクレチン分泌制御を基盤とした糖尿病・肥満治療の研究	原田 範雄	内分泌・代謝内科学	3,000,000	補 一般社団法人日本病態栄養学会
9	インクレチンの産生・分泌制御を基盤とした糖尿病治療の研究・開発	原田 範雄	内分泌・代謝内科学	2,500,000	補 一般社団法人日本糖尿病学会
10	腸管に発現する脂肪酸受容体の機能解析	原田 範雄	内分泌・代謝内科学	590,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
11	心房細動予防への新たなアプローチ～心筋細胞内脂肪蓄積へのGLP-1受容体作動薬の効果	佐藤 さつき	内分泌・代謝内科	1,400,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
12	肺癌の免疫治療における腫瘍免疫機能とPET/MRIを用いた画像情報の統合解析	梅田 幸寛	呼吸器内科	800,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
13	機械学習を用いたCKD未病状態における新規病型分類と治療効果	遠山 直志	腎臓病態内科学	110,939	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
14	空間マルチオミックスや組織切片上シングルセル解析を用いたIgMPC-TINの病態解明	高橋 直生	腎臓内科	1,200,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
15	PET/MRIによる腎疾患の酸化ストレスイメージングとその病態解析	西川 雄大	腎臓内科	1,500,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
16	若年発症の心房細動患者の遺伝的背景と治療介入による予後の解明	長谷川 奏恵	循環器内科学	3,000,000	補 公益財団法人福田記念医療技術振興財団
17	全身性強皮症に合併する難治性不整脈の催不整脈性因子の解明	長谷川 奏恵	循環器内科学	2,000,000	補 公益財団法人矢崎科学技術振興記念財団

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
18	エボロクマブを用いた積極的脂質低下療法が重症下肢虚血の予後を改善する未知の機序	佐藤 裕介	循環器内科	100,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
19	大腸癌治療:新アプローチ:PROK1分子と分子レセプター結合による未知の機能解析	五井 孝憲	外科学(1)	1,000,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
20	臍島皮下移植効果改善を目的とした3D培養を応用した人工臍デバイスの開発	村上 真	消化器外科	1,500,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
21	虚血性心筋症に対し複数のタンパクの組み合わせによる心機能改善療法の開発	福井 伸哉	外科学(2)	2,000,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
22	64Cu-ATSMにより標的選定したレドックス関連分子から探る大動脈瘤発生機序	田邊 佐和香	心臓血管外科	1,400,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
23	メタボリック症候群に着目したタダラフィルの有効性の関連因子	寺田 直樹	泌尿器科学	1,000,000	補 一般社団法人日瑞研究基金
24	心理的ストレスによる膀胱機能障害の発症機序の解明-膀胱壁のCRFに注目して-	関 雅也	泌尿器科学	600,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
25	血清N結合型糖鎖プロファイル分析による乾癬の新規バイオマーカーの探索	長谷川 稔	皮膚科学	1,000,000	補 公益財団法人日本応用酵素協会
26	内皮間葉移行阻害薬の探索と強皮症治療への応用	長谷川 稔	皮膚科学	900,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
27	細胞外基質ECM1を標的とした新たな皮膚癌間質標的治療へのアプローチ	尾山 徳孝	皮膚科学	1,900,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
28	下肢虚血におけるマクロファージに誘導される炎症による疼痛緩和メカニズムの解明	中井 國博	形成外科学	1,000,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
29	肉腫から分泌されるエクソソームによる細胞間クロストークの包括的解析	松峯 昭彦	整形外科	4,400,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
30	肉腫から分泌されるエクソソームによる細胞間クロストークの包括的解析	松峯 昭彦	整形外科	3,586,805	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
31	膜タンパク陽性エクソソームによる脊柱靭帯骨化の疾患活動性評価法の開発と機能解析	中嶋 秀明	整形外科	1,000,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
32	悪性軟部腫瘍に対する術前化学療法感受性予測モデルの構築	田中 太晶	整形外科	1,300,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
33	間葉系間質細胞由来エクソソームの静脈投与による神経保護・再生および疼痛抑制効果	渡邊 修司	整形外科	1,400,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
34	CD271陽性幹細胞を用いた変形性膝関節症に対する新たなアプローチ	坂本 拓己	整形外科	1,400,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
35	ヒト脊柱靭帯骨化由来エクソソームを用いたプロテオミクス解析および抗膜タンパク抗体を用いた骨分化抑制効果	神谷 実木子	整形外科	500,000	補 公益財団法人整形災害外科学研究所助成財団
36	脂肪由来間質細胞による脊髄損傷治療-髄腔内投与後の組織分布と運動機能解析-	高橋 藍	リハビリテーション科	700,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
37	静止流体数値解析による緑内障視神経症の三次元シミュレーション	稲谷 大	眼科学	3,600,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
38	流体力学解析システムによる緑内障視神経症の病態メカニズムの解明	稲谷 大	眼科学	1,600,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
39	難治性虚血性網膜疾患の根本的病態を解消するエピジェネティック関連阻害剤の開発	高村 佳弘	眼科学	900,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
40	チューブシャント手術による眼内VEGF減少効果の解明	岩崎 健太郎	眼科学	900,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
41	エピジェネティック異常を標的とした糖尿病眼合併症克服への新たな治療戦略	松村 健大	眼科	800,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
42	自閉症スペクトラム障害動物モデルを用いた睡眠障害分子機構の解明	辻 隆宏	眼科	400,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
43	水晶体酸化ストレス応答に注目した緑内障濾過手術後における白内障予防法の創出	有村 尚悟	眼科	1,200,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
44	流体・構造解析を難治性網膜疾患の治療へ応用する	後沢 誠	眼科	600,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
45	好酸球性副鼻腔炎のQOL調査とQOLに基づいた治療ゴールの設定	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	7,000,000	補 国立保健医療科学院
46	細胞間相互作用および微生物叢を組み合わせた好酸球性副鼻腔炎の病態解明	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	5,700,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
47	好酸球性副鼻腔炎に関する病態解明	高林 哲司	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,000,000	補 一般社団法人日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会
48	レニン・アンジオテンシン系の制御異常からみた好酸球性副鼻腔炎の病態解明	高林 哲司	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,700,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
49	中耳真珠腫に対するdectin-1シグナル伝達からみた薬物治療へのアプローチ	木村 幸弘	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,200,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
50	舌下免疫療法における免疫応答細胞の同定と新規アジュバント療法の開発	木戸口 正典	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	12,000,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
51	好酸球性副鼻腔炎における鼻腔内短鎖脂肪酸の機能解析と病態解明の研究	意元 義政	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	500,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
52	花粉-食物アレルギー症候群モデルマウスにおける舌下免疫療法の確立と機序解明	加藤 幸宣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,200,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
53	IL-1RAによる口腔癌放射線治療の増感と粘膜炎予防効果への応用	伊藤 有未	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	900,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
54	好酸球性副鼻腔炎の鼻茸中へ好酸球を特異的に誘導する因子の解明	加藤 永一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,700,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
55	アレルギー性鼻炎による嗅覚障害の病態と脳神経回路の器質的変化の解明	前川 文子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,100,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
56	カテキンによるユビキチン・プロテアソーム分解機構活性化を応用した口腔癌治療の検討	吉村 仁志	歯科口腔外科学	700,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
57	HBp17の立体構造に基づいた口腔癌の発生と進行メカニズムの解析	阿久津 純一	歯科口腔外科学	1,200,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
58	睡眠時咬筋活動を考慮した口腔顔面領域の疼痛に対する感受性と自己表現の解析	松田 慎平	歯科口腔外科	1,100,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
59	糖鎖・糖タンパク質を利用した歯性感染症の分子イメージング技術の開発	吉田 寿人	歯科口腔外科	1,000,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
60	口腔粘膜免疫系を利用した食物アレルギーの新規治療と評価法の開発	大嶋 勇成	小児科学	1,300,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
61	食物アレルギーに対する抗原特異的IgDの役割の解明	伊藤 尚弘	小児科学	1,800,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
62	アミノ酸・アシルカルニチンプロファイルを用いた未熟児のアミノ酸・脂質代謝の検討	五十嵐 愛子	小児科	800,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
63	自閉スペクトラム症児の睡眠障害に対する協調運動からのアプローチ	小坂 拓也	小児科	2,200,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
64	脂肪酸酸化能検査の応用によるCPT2欠損症の診断・重症度判定	湯浅 光織	小児科	1,000,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
65	中心・側頭部に棘波を持つ自然終息性てんかん患者では睡眠改善が発作改善に繋がるか？	前田 夢吉	小児科	500,000	補 公益財団法人森永奉仕会
66	エクソソーム由来タンパク質をターゲットとした子宮肉腫治療への新しいアプローチ	吉田 好雄	産科婦人科学	4,800,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
67	卵巣局所の慢性炎症を制御する：子宮内膜症とPCOSにおける卵胞発育障害の機構解明	折坂 誠	産科婦人科学	1,200,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
68	卵巣癌における血漿ゲルソリンによる樹状細胞機能抑制機構の解明と新規免疫療法の開発	大沼 利通	産科婦人科学	900,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
69	Radiogenomics解析による子宮体癌の遺伝学的分類診断法の確立と予後マーカーの探索	山田 しず佳	産科婦人科学	1,300,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
70	エストロゲン受容体イメージングを応用した子宮体癌の転移機序解明と新規治療薬の開発	津吉 秀昭	産科婦人科	1,100,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
71	細胞シート工学を応用した帝王切開創部菲薄化の予防～成熟血管網の構築に着目して～	川村 裕士	産科婦人科	1,200,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
72	精子の翻訳後修飾に着目した受精メカニズムの解明と胚への影響について	水野 なつみ	産科婦人科	1,500,000	補 公益財団法人今井精一記念財団
73	精子におけるタンパク質翻訳後修飾の機能解明	水野 なつみ	産科婦人科	500,000	補 公益財団法人日本動物学会
74	10代の摂食障害を科学する！-脳とこころとからだの多角的アプローチ-	小坂 浩隆	精神医学	3,900,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
75	社会的・医療的サポートを受けている子どもたちによる能動的・創造的な音楽活動	福元 進太郎	精神医学	1,600,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
76	気がかり妊婦に対するオープンダイアローグの効果検証	水野 智之	神経科精神科	400,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
77	成人期ADHDに対する客観的診断補助システムの開発-視線追跡装置を用いて-	上野 幹二	神経科精神科	500,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
78	脳形態画像を用いて反復経頭蓋磁気刺激療法の効果を示す生物学的指標の確立を目指す	幅田 加以瑛	神経科精神科	1,000,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
79	虚血性脳血管障害におけるDANTEパルスを用いた脳血液量評価の研究	磯崎 誠	脳神経外科	1,300,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
80	TREKに対する吸入麻酔薬の張力を介した作用機序解明	松木 悠佳	麻酔・蘇生学	2,100,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
81	エストロゲン受容体PET/MRIと腫瘍構造解析による乳癌の新規診断法の確立	辻川 哲也	放射線医学	1,000,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
82	メタボに固執した特定健診からの脱却: real world dataを用いたAIによる評価法の創出	川野 貴久	救急医学	2,500,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
83	全国の救急搬送患者の病院選定・決定までの連絡回数と現場滞在時間の関連	山田 直樹	救急部	100,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
84	SpO2波形の人工知能による分析を介した包括的肺炎診療の開発	山中 俊祐	救急部	900,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
85	人工呼吸管理を要する集中治療患者における個別化治療戦略の探索:多施設共同研究	田中 愛子	集中治療部	250,000	補 公益財団法人国際耳鼻咽喉科学振興会
86	WT1変異・高発現白血病に対するHSP90を介した細胞死誘導機構の解明	細野 奈穂子	輸血部	1,700,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
87	重症患者における集中治療後症候群改善のための身体活動性向上プログラムの開発	野々山 忠芳	リハビリテーション部	2,200,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
88	脳卒中後の体性感覚機能障害に対する反復的体性感覚刺激効果の確立	渡邊 拓	リハビリテーション部	1,500,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
89	リハビリテーション施行時における不随意応答を用いた客観的な疼痛評価方法の確立	松尾 英明	リハビリテーション部	900,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
90	急性期脳卒中症例の座位保持困難要因の解明	井上 大聖	リハビリテーション部	470,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
91	子宮内炎症における分泌蛋白ゲルソリンの機能解析:感染起因性の早産克服を目指して	宮崎 有美子	周産期母子医療センター	1,000,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
92	自閉スペクトラム症児童の脳内グルタミンシステムの検証	松崎 秀夫	子どものこころの発達研究センター	3,900,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
93	自閉スペクトラム症児童を対象とする5-ALAリン酸塩経口投与効果検証	松崎 秀夫	子どものこころの発達研究センター	1,000,000	補 公益財団法人先進医薬研究振興財団

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
94	ADHD児に対するグアンファシンの神経ネットワークへの効果の解明	水野 賀史	子どものこころの発達研究センター	1,600,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
95	MRIによる包括的アプローチを用いたADHDの神経基盤の解明と客観的バイオマーカーの開発	水野 賀史	子どものこころの発達研究センター	1,500,000	補 公益財団法人母子健康協会
96	子どもの神経発達症・摂食障害へのセルフヘルプ遠隔認知行動療法と客観的評価法の開発	濱谷 沙世	子どものこころの発達研究センター	3,300,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
97	重度な神経性やせ症に対する遠隔認知行動療法の開発及び治療メカニズムの解明	濱谷 沙世	子どものこころの発達研究センター	1,700,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
98	ADHDモニタリングに関する新尺度「SNABB」の開発:多施設共同ランダム化比較試験への応用	濱谷 沙世	子どものこころの発達研究センター	800,000	補 公益社団法人小児医学研究振興財団
99	好酸球性副鼻腔炎におけるレチノイド代謝に鼻腔細菌叢が与える影響の解明	坂下 雅文	医学研究支援センター	1,500,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
100	医療現場に必要な製剤を市販化に導くための薬剤疫学的研究	渡邊 享平	医学研究支援センター	1,600,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
101	カルテ情報・院内がん登録・DPCデータを用いた徳洲会がんリアルワールド解析	今村 善宣	がん診療推進センター	1,200,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
102	タウ病理に基づく認知症の層別化と分子病態の解明	岡沢 秀彦	高エネルギー医学研究センター	3,200,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
103	神経変性疾患治療法の開発と認知症セラノスティックスへの応用	岡沢 秀彦	高エネルギー医学研究センター	1,600,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
104	筋肉の質とヘモペキシン生産による脳内炎症の生体調整メカニズムの検証研究	大西 秀典	地域医療推進講座	1,200,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
105	オートファジー破綻によるタウオリゴマー形成促進機構の解明	濱野 忠則	地域高度医療推進講座	900,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
106	グルタミン酸受容体・AD病理の包括的脳PET/MRIによるアルツハイマー病の病態解明	井川 正道	地域健康学講座	1,200,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
107	自己免疫性脳炎における抗神経抗体のCBAIに代わる新規迅速・定量的測定法の開発	松永 晶子	地域健康学講座	900,000	補 日本学術振興会科学研究費助成事業
108	臨床試験実施と検体収集	山内 高弘	内科学(1)	195,000	委 国立大学法人東海国立大学機構
109	C型肝硬変患者の粘膜関連腸内細菌叢と門脈圧亢進症の検討(インターフェロンフリー治療がC型肝硬変患者の予後を含めたアウトカムに与える影響を明らかにする研究)	中本 安成	消化器内科学	1,040,000	委 国立大学法人大阪大学
110	HCV SVR後肝癌における免疫担当細胞の検討	中本 安成	消化器内科学	910,000	委 国立大学法人山梨大学
111	日米医学協力計画を基軸にしたアジアの栄養・代謝に関する疫学・介入研究と人材育成	原田 範雄	内分泌・代謝内科学	650,000	委 国立大学法人京都大学

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
112	High volume 転移を認める前立腺癌患者に対する局所放射線治療を併用する標準治療の確立と治療効果予測マーカーの開発	寺田 直樹	泌尿器科学	1,118,000	委 国立大学法人宮崎大学
113	全身性強皮症に伴う間質性肺疾患(SSc-ILD)に対するPAI-1阻害薬TM5614の第Ⅱ相医師主導治験	長谷川 稔	皮膚科学	3,900,000	委 国立大学法人東北大学
114	進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究	松峯 昭彦	整形外科学	390,000	委 国立大学法人大分大学
115	日米の慢性鼻副鼻腔炎患者の発症・難治化メカニズムに基づく新規治療ターゲットの探索と個別化医療戦略の基盤構築	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	30,079,270	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
116	乳幼児アレルギー性鼻炎の実態調査と抗原感作・疾患発症の病態解明	吉田 加奈子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	6,500,000	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
117	新生児マスキング対象疾患拡大に関する診断研究	大嶋 勇成	小児科学	520,000	委 一般社団法人東海マスキング推進協会
118	コミュニケーション双方向支援の神経多様性における検証	小坂 浩隆	精神医学	3,575,000	委 国立研究開発法人科学技術振興機構
119	統合失調症の認知機能障害の新規スクリーニング質問票に関する調査研究	小坂 浩隆	精神医学	2,145,000	委 国立精神・神経医療研究センター
120	循環制御用ロボット麻酔システムの開発	松木 悠佳	麻酔・蘇生学	45,419,920	委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
121	ウェアラブルデバイスを利用した簡易型トラウマ治療機器の開発	水野 賀史	子どものこころの発達研究センター	2,670,000	委 国立大学法人大阪大学
122	ヒノキ科花粉症に対する次世代アレルゲン免疫療法の開発	坂下 雅文	医学研究支援センター	780,000	委 学校法人国際医療福祉大学
123	アトピー性皮膚炎をモデルとした次世代リパーstransレーショナル研究基盤構築に向けた研究	坂下 雅文	医学研究支援センター	260,000	委 学校法人慶應義塾

計123件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Araie H, Hosono N, Yamauchi T	血液・腫瘍内科	Cellular uptake of CPX-351 by scavenger receptor class B type 1-mediated nonendocytic pathway	Exp Hematol. 2024 Dec; 140:104651	Original Article
2	Araie H, Seki T, Okada A, 他	血液・腫瘍内科	Temporal trends in time toxicity of R-CHOP: a nationwide hospital-based database analysis in Japan	Support Care Cancer.2025 Mar; 33(4):293	Original Article
3	Ida N, Okura M, Tanaka S, 他	血液・腫瘍内科	Combining inotuzumab ozogamicin with PARP inhibitors olaparib and talazoparib exerts synergistic cytotoxicity in acute lymphoblastic leukemia by inhibiting DNA strand break repair	Oncology Rep. 2024 Jul; 52(1):90	Original Article
4	Naito T, Nosaka T, Tanaka T, 他	消化器内科学	Usefulness of an artificial intelligence-based colonoscopy report generation support system	Clin Endosc. 2025 Mar; 58(2):327-330	Original Article
5	Murata Y, Nosaka T, Akazawa Y, 他	消化器内科学	Serial Changes of Circulating Tumor Cells in Patients with Hepatocellular Carcinoma Treated with Atezolizumab Plus Bevacizumab	Cancers (Basel). 2024 Jun; 16(13):2410	Original Article
6	Takahashi K, Nosaka T, Murata Y, 他	消化器内科	Influence of antiplatelet drugs on gastric ulcer healing after endoscopic submucosal dissection in patients with early gastric cancer	DEN Open. 2025 Feb (オンライン)	Original Article
7	Matsuda H, Nosaka T, Hiramatsu K, 他	消化器内科	Analysis of peripheral immune markers to predict liver injury during COVID-19	Clini J of Gastroenterol. 2024 Aug; 17(4):797-798	Others
8	Nosaka T, Murata Y, Akazawa Y, 他	消化器内科	Changes of circulating tumor cells expressing CD90 and EpCAM in early-phase of atezolizumab and bevacizumab for hepatocellular carcinoma	Heliyon. 2024 Jul (オンライン)	Original Article
9	Nosaka T, Naito T, Akazawa Y, 他	消化器内科	Identification of novel antiviral host factors by functional gene expression analysis using in vitro HBV infection assay systems	PLoS One. 2025 Mar (オンライン)	Original Article
10	Nosaka T, Murata Y, Akazawa Y, 他	消化器内科	Programmed Death Ligand 1 Expression in Circulating Tumor Cells as a Predictor and Monitor of Response to Atezolizumab plus Bevacizumab Treatment in Patients with Hepatocellular Carcinoma	Cancers (Basel). 2024 May; 16(9):1785	Original Article
11	Akazawa Y, Ohtani M, Nosaka T, 他	消化器内科	Usefulness of pancreatic volume quantitative analysis as a predictor of development and severity of post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis	Pancreatology. 2024 Aug; 24(5):698-705	Original Article
12	Nomiya H, Yamada M	消化器内科	Interactions between genetic and environmental factors and schizophrenia: Insights from KPNA1-deficient mice	J Neurology Neuromedicine. 2024 May; 8(2):1-6	Review
13	Saito R, Harada N	内分泌・代謝内科学	Regulation of glucose metabolism by incretins: implications for treatment of type 2 diabetes	Dibetol Int. 2024 Dec; 16(3):442-446	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
14	Umeda Y, Kimura S, Kimura J, 他	呼吸器内科	Tepotinib for the treatment of lung adenocarcinoma harboring MET Y1003N point mutation: A case report	Thorac Cancer. 2025 Jan (オンライン)	Case report
15	Kimura S, Umeda Y, Egashira R, 他	呼吸器内科	Human T-cell Lymphotropic Virus Type-1-associated Bronchioloalveolar Disorder with Non-necrotizing Granulomas: A Case Report and Literature Review	Intern Med. 2024 Apr; 63(8):1149-1155	Case report
16	Nishikawa S, Kasuno K, Nishimori K, 他	腎臓内科	Prolonged depletion of renal tubular thioredoxin following severe acute kidney injury is associated with transition to chronic kidney disease via G2/M cell cycle arrest	Biochem Biophys Res Commun.2025 Mar; 754:151425	Original Article
17	Hasegawa K, Yoneda ZT, Martines-Parachini JR, 他	循環器内科学	Can intracardiac echocardiography reduce steam pops during half-normal saline irrigated radiofrequency ablation?	Circ Arrhythm Electrophysiol. 2024 Jun (オンライン)	Original Article
18	Sato Y, Morishita T, Shimizu T, 他	循環器内科	Evaluation of nontarget lesions in femoropopliteal disease using near-infrared spectroscopy intravascular ultrasound imaging	Catheter Cardiovasc Interv.2024 Sep; 104(3):540-547	Original Article
19	Sato Y, Morishita T, Tada H	循環器内科	Efficacy of aggressive lipid-lowering therapy on plaque stabilization in femoropopliteal disease, assessed using near-infrared spectroscopy intravascular ultrasound	Eur Heart J. 2025 Mar; 46(10):983	Case report
20	Sawai K, Goi T, Kimura Y, 他	外科学(1)	Presence of CD44v9-Expressing Cancer Stem Cells in Circulating Tumor Cells and Effects of Carcinoembryonic Antigen Levels on the Prognosis of Colorectal Cancer	Cancers(Basel). 2024 Apr; 16(8):1556	Original Article
21	Sawai K, Goi T, Kimura Y, 他	外科学(1)	Reduction of Blood Oxidative Stress Following Colorectal Cancer Resection	Cancers(Basel). 2024 Oct; 16(20):3550	Original Article
22	Tagai N, Goi T, Koneri K, 他	消化器外科	Mass-forming type 2 autoimmune pancreatitis with upstream dilatation of the main pancreatic duct dilatation: a case report	J Med Case Rep. 2024 Dec; 18(1):615	Case report
23	Taga M, Sasaki T, Higashi S, 他	泌尿器科	Efficacy of androgen receptor signaling inhibitors in combination with androgen deprivation therapy for castration-sensitive metastatic prostate cancer: a retrospective analysis in a Japanese cohort	Int J Clin Oncol. 2025 Feb; 30(2):351-357	Original Article
24	Inamura S, Fukiage Y, Kobayashi H, 他	泌尿器科	Dutasteride,a 5 alpha reductase inhibitor,could be associated with the exacerbation of inflammation in patients with benign prostatic hyperplasia	Int Urol. 2025 Feb; 32(2):151-157	Original Article
25	Inamura S, Terada N	泌尿器科	Chronic inflammation in benign prostatic hyperplasia: Pathophysiology and treatment options	Int Urol. 2024 Sep; 31(9):968-974	Review
26	Fukiage Y, Low S, Muramoto A 他	泌尿器科	Expression of Glycoprotein 2 and Its Glycosylation in Human Cowper's Gland	J Histochem Cytochem.2025 Jan; 73(1):55-61	Original Article
27	Okubo N, Kabuto T, Kobayashi H, 他	泌尿器科	Large-cell neuroendocrine carcinoma of the kidney effectively treated by nivolumab and ipilimumab	IJU Case Rep. 2024 Dec; 8(2):89-92	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
28	Uesugi-Uchida S, Fujimoto M, Asano Y, 他	皮膚科	Predictors of clinical features in early-onset severe systemic sclerosis: An analysis from a multicenter prospective observational Japanese cohort	J Dermatol. 2024 Oct; 51(10):1290-1297	Original Article
29	Yamauchi Y, Oyama N, Hasegawa M	皮膚科	A case of segmental acquired reactive perforating collagenosis: case report and literature review of the unique presentation	An Bras Dermatol. 2025 Jan; 100(1):169-172	Case report
30	Sekine S, Oyama N, Io K, 他	皮膚科	The use of oral colchicine as a therapeutic and prophylactic approach in a case of PFAPA syndrome with recurrent genital ulcers: an under-recognized manifestation?	Eur J Dermatol. 2024 Apr; 34(2):213-214	Case report
31	Hasegawa T, Utsunomiya A, Chino T, 他	皮膚科	Anti-CX3CL1 (fractalkine) monoclonal antibody attenuates lung and skin fibrosis in sclerodermatous graft-versus-host disease mouse model	Arthritis Res Ther. 2024 May; 26(1):94	Original Article
32	Miyajima M, Oyama N, Inamura S, 他	皮膚科	Plasma Cell Balanitis Unresponsive to Topical Corticosteroids: Combined Efficacy of Tacrolimus and Emerging Evidence for Underrecognized Intrinsic Resistance to Corticosteroids	Cureus. 2025 Mar (オンライン)	Case report
33	Matsumine A	整形外科	Treatment of bone and soft tissue tumors – Responsibilities and challenges for orthopedic surgeons	J Orthop Sci. 2024 May; 29(3):703	Review
34	Nakajima H, Watanabe S, Honjoh K, 他	整形外科	Risk factors for early-onset adjacent segment degeneration after one-segment posterior lumbar interbody fusion	Sci Rep. 2024 Apr; 14(1):9145	Original Article
35	Nakajima H, Watanabe S, Honjoh K, 他	整形外科	Surgical strategy for metastatic spinal tumors based on Spine Instability Neoplastic Score and patient-reported outcomes: JASA multicenter prospective study	J Neurosurg Spine. 2024 Nov; 42(2):203-214	Original Article
36	Nakajima H, Johnson W, Kamitani M, 他	整形外科	Proteomic analysis and effects on osteogenic differentiation of exosomes from patients with ossification of the spinal ligament	JBMR Plus. 2025 Feb (オンライン)	Original Article
37	Nakajima H, Kubota A, Watanabe S, 他	整形外科	Pretreatment prognostic factors for intradiscal condoliase injection in patients with lumbar disc herniation: Insights from clinical and MRI-based quantitative analysis	J Clin Med. 2025 Feb; 14(5):1509	Original Article
38	Iwasaki K, Arimura S, Takamura Y, 他	眼科学	Clinical Practice Preferences for Glaucoma Surgery in Japan in 2024	J Clin Med. 2025 Mar; 14(6):2039	Original Article
39	Iwasaki K, Komori R, Arimura S, 他	眼科学	Intraocular Pressure-Lowering Effect of Intraocular Lens Refixation in Patients with Elevated Intraocular Pressure Due to Intraocular Lens Subluxation	Medicina. 2024 Sep; 60(9):1440	Original Article
40	Yamada Y, Takamura Y, Morioka M, 他	眼科学	Characteristics of Microaneurysm Size in Residual Edema After Intravitreal Injection of Faricimab for Diabetic Macular Edema	J Clin Med. 2024 Dec; 13(24):7839	Original Article
41	Tsuji T, Furuhashi K, Guo E, 他	眼科	Oral Supplementation of L-Carnosine Attenuates Acute-Stress-Induced Corticosterone Release and Mitigates Anxiety in CD157 Knockout Mice	Nutrients. 2024 Aug; 16(17):2821	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
42	Gozawa M, Orii Y, Takamura Y, 他	眼科	A case of globe rupture crossing calcified senile scleral plaque	Am Jou Ophthalmol Case Rep.2024 Aug; 36:102163	Case report
43	Sugihara Y, Takamura Y, Yamada Y, 他	眼科	Characterization of the visually impaired patients with diabetes mellitus in Japan	J Diabetes Investig. 2024 Jul; 15(7):882-891	Original Article
44	Ichihashi Y, Takamura Y, Hirano T, 他	眼科	Flare levels after intravitreal injection of brolocizumab for diabetic macular edema	Graefes Arch Clinil Exp Ophthalmol.2024 Jun; 262(6):1745-1753	Original Article
45	Fujieda S, Pinto MJ, Jang DW, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Baseline disease characteristics by surgery history among patients with chronic rhinosinusitis with nasal polyps (CRSwNP) in the global AROMA registry	Am J Otolaryngol. 2025 Mar; 46(2):104596	Original Article
46	Fujieda S, Wang C, Yoshikawa M, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	Mepolizumab in CRSwNP/ECRS and NP: the phase III randomised MERIT trial in Japan, China, and Russia	Rhinology. 2024 Oct; 62(5):576-589	Original Article
47	Imoto Y, Sakashita M, Tokunaga T, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Recent prevalence of allergic rhinitis caused by house dust mites among the pediatric population in Fukui, Japan	World Allergy Organ J. 2024 Jul; 17(7):100932	Original Article
48	Kato E, Muramoto A, Yonemoto N, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	High M2/M1 Macrophage Ratio Observed in Nasal Polyps Formed in Allergic Fungal Rhinosinusitis	J Histochem Cytochem.2024 Nov; 72(11):683-692	Original Article
49	Kato Y, Morikawa T, Fujieda S	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Comprehensive review of pollen-food allergy syndrome: Pathogenesis, epidemiology, and treatment approaches	Allergol Int. 2025 Jan; 74(1):42-50	Review
50	Tsubokawa A, Chihara K, Chihara Y, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Adaptor protein 3BP2 regulates gene expression in addition to the ubiquitination and proteolytic activity of MALT1 in dectin-1-stimulated cells	J Biol Chem. 2024 Dec; 300(12):1079800	Original Article
51	Shirogane Y, Usami Y, Okumura M, 他	歯科口腔外科学	Anti-VEGFR2 neutralising antibody slows the progression of multistep oral carcinogenesis	J Pathol. 2024 Dec; 264(4):423-433	Original Article
52	Yoshida H, Yamamoto S, Matsuda S, 他	歯科口腔外科	A case of acute submandibular sialadenitis caused by a fish bone that strayed into the submandibular gland duct	ORAL SCI INT. 2024 May; 21(2):308-313	Original Article
53	Yasutomi-Sakai M, Hayashi T, Suzuki K, 他	小児科	BAFF-associated granulomatous lung disease in a patient with GATA2 deficiency	J Allergy Clini Immunol Glob.2024 Aug; 3(4):100336	Case report
54	Okuno T, Takeuchi M, Shimizu S, 他	小児科	ARC syndrome accompanied with glaucoma in one of two affected siblings	Pediatr int. 2025 Jan (オンライン)	Case report
55	Yamada K, Shinozaki T, Ohshima Y	小児科	Effect of Social Distancing Caused by Heavy Snowfall on Seasonal Influenza Epidemic in a Local Region in Japan	Pediatr Infect Dis J. 2024 Oct; 43(10):936-941	Original Article
56	Onuma T, Shinagawa A, Kurokawa T, 他	産科婦人科学	Fractal Dimension, Circularity, and Solidity of Cell Clusters in Liquid-Based Endometrial Cytology Are Potentially Useful for Endometrial Cancer Detection and Prognosis Prediction	Cancers(Basel). 2024 Jul; 16(13):2469	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
57	Onuma T, Asare-Werehene M, Fujita Y, 他	産科婦人科学	Plasma Gelsolin Inhibits Natural Killer Cell Function and Confers Chemoresistance in Epithelial Ovarian Cancer	Cells. 2024 May; 13(11):905	Original Article
58	Yamada S, Orisaka M, Kurokawa T, 他	産科婦人科学	Combination therapy with paclitaxel and trastuzumab for human epidermal growth factor receptor 2-positive recurrent serous carcinoma of the uterine cervix: A case report	J Obstet Gynaecol Res. 2024 Sep; 50(9):1748-1752	Case report
59	Hoshino H, Inoue D, Shinagawa A, 他	産科婦人科	Establishment of a human ovarian clear cell carcinoma cell line mutant in PIK3CB but not PIK3CA	Hum Cell. 2024 Jul; 37(4):1184-1193	Original Article
60	Inoue D, Hoshino H, Chen YY, 他	産科婦人科	Structural Elucidation and Prognostic Relevance of 297-11A-Sulfated Glycans in Ovarian Carcinoma	Lab Invest. 2024 Jun; 104(6):102057	Original Article
61	Tanaka Y, Inoue D, Tsuyoshi H, 他	産科婦人科	Usefulness of Nutritional Assessment Indicators in Predicting Treatment Discontinuation Due to Adverse Events from PARP Inhibitors in Ovarian Cancer Patients	Cancers (Basel). 2024 Oct; 16(21):3602	Original Article
62	Ueno K, Ishitobi M, Kosaka H, 他	神経科精神科	Mirtazapine monotherapy for antipsychotics-refractory psychosis in a patient with very-late-onset schizophrenia-like psychosis: a case report	Clin Psychopharmacol Neurosci. 2024 May; 22(2):387-389	Case report
63	Kawajiri S, Isozaki M, Yamauchi T, 他	脳神経外科学	Usefulness of endoscopic third ventriculostomy for hydrocephalus from pineal lesion meningioma in an elderly patient: A case report	Interdisciplinary Neurosurgery. 2024 Jun;36:101868	Case report
64	Matsuki Y, Hosokawa K, Uchino A, 他	麻酔・蘇生学	Sequential alveolar recruitment maneuvers during laparoscopic radical prostatectomy: a pilot randomized control trial	Anaesthesia, Pain & Intensive Care. 2024 Apr; 28(2):329-332	Original Article
65	Matsuki Y, Iwamoto M, Maki T, 他	麻酔・蘇生学	Programmable Lipid Bilayer Tension-Control Apparatus for Quantitative Mechanobiology	ACS Nano. 2024 Nov; 18(44):30561-30573	Original Article
66	Matsuki Y, Takashima M, Ueki M, 他	麻酔・蘇生学	Probing membrane deformation energy by KcsA potassium channel gating under varied membrane thickness and tension	FEBS Lett. 2024 Aug; 598(16):1955-1966	Original Article
67	Nakanishi Y, Matsuki Y, Nagata O, 他	麻酔・蘇生学	The Relationship between the Measured Blood Concentration of Rocuronium in Stable Muscle Relaxation with a Closed-Loop Control and the Estimated Blood Concentration from a Pharmacokinetic Simulation	J Clin Med. 2024 May; 13(11):3139	Original Article
68	Yamazaki Y, Matsuki Y, Hosokawa K, 他	麻酔科蘇生科	Respiratory system compliance during anesthesia induction and postoperative mechanical ventilation needs: An observational study	Health Science Reports. 2024 Aug (オンライン)	Original Article
69	Shiraishi T, Matsuki Y, Yamazaki Y, 他	麻酔科蘇生科	Comparison of Left Ventricular End-Diastolic Volume Approximated from Mean Blood Pressure and Stroke Volume and End-Diastolic Volume Calculated from Left Ventricular-Aortic Coupling	J Clin Med. 2024 May; 13(11):3204	Original Article
70	Shiraishi T, Hosokawa K	麻酔科蘇生科	We Need a Clinically Relevant Sepsis Screening Tool	Crit Care Med. 2025 Mar (オンライン)	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
71	Muramoto A, Hoshino H, Inamura S, 他	病理診断科	Expression of Podocalyxin Potentially Decorated With Low-sulfated Keratan Sulfate in Human Testicular Embryonal Carcinoma	J Histochem Cytochem.2024 Jul; 72(7):453-465	Original Article
72	Iwamura N, Kidoguchi S, Asahi N, 他	検査部	Superiority of high sensitivity cardiac troponin I over NT-proBNP and adiponectin for 7-year mortality in stable patients receiving haemodialysis	Sci Rep. 2024 May; 14(1):11488	Original Article
73	Kidoguchi S, Torii K, Okada T, 他	検査部	Fatty Acid β -Oxidation May Be Associated with the Erythropoietin Resistance Index in Stable Patients Undergoing Haemodialysis	Diagnostics (Basel). 2024 Oct; 14(20):2295	Original Article
74	Kimura H, Kamiyama K, Imamoto T, 他	検査部	Dichloroacetate reduces cisplatin-induced apoptosis by inhibiting the JNK/14-3-3/Bax/caspase-9 pathway and suppressing caspase-8 activation via cFLIP in murine tubular cells	Sci Rep. 2024 Oct; 14(1):24307	Original Article
75	Matsuta K, Kamiyama K, Imamoto T, 他	検査部	PPAR- α Insufficiency Enhances Doxorubicin-Induced Nephropathy in PPAR- α Knockout Mice and a Murine Podocyte Cell Line	Cells. 2024 Aug; 13(17):1446	Original Article
76	Kishimoto T, Onishi H, Tsubouchi H, 他	放射線部	Association between upper limb muscle quality and knee osteoarthritis in dynapenia: an observational cross-sectional study	J Clin Biochem Nutr. 2024 Sep; 75(2):145-152	Original Article
77	Sato K, Hirayama Y, Mizutani A, 他	放射線部	Potential Application of the Myocardial Scintigraphy Agent [¹²³ I]BMIPP in Colon Cancer Cell Imaging	Int J Mol Sci. 2024 Jul; 25(14):7747	Original Article
78	Kamikawa Y	救急部	Impact of the active job openings-to-applicants ratio on the number of ambulance dispatches in Japan, 2003-2021: a longitudinal ecological study	BMJ Open. 2024 Nov (オンライン)	Original Article
79	Tanaka A, Yatabe T, Suhara T, 他	集中治療部	The optimal glycemic target in critically ill patients: an updated network meta-analysis	J Intensive Care. 2024 Apr; 12(1):14	Others
80	Kawamura Y, Hosokawa K	集中治療部	Clinically Relevant ICU Strain Measuring Using the Activity Index	Crit Care Med. 2024 Jul (オンライン)	Letter
81	Arai H, Hosono N, Chi S, 他	輸血部	A practice-oriented genome-profiling study for acute myeloid leukemia using the novel HANDLE system: HM-screen-JAPAN02	Int J Hematol. 2025 Mar; 121(3):378-387	Original Article
82	Inoue T, Watanabe H, Matsuo H, 他	リハビリテーション部	Investigating the association between sitting ability, trunk electromyography, and sitting posturography in patients with acute stroke: A cross-sectional study	Gait & Posture. 2024 Sep; 113:359-365	Original Article
83	Tanaka T, Nosaka T, Akazawa Y, 他	光学医療診療部	Arteriovenous malformations of the colon evaluated using hemodynamic parameters in color Doppler EUS	VideoGIE. 2024 Jul; 9(10):457-459	Original Article
84	Tanaka T, Onishi H, Kiyono M, 他	総合診療部	Does the Number of Turns during Sleep Have Utility in the Early Detection of Parkinson's Disease and Its Related Disorders?	JMA J. 2024 Oct; 7(4):553-561	Original Article
85	Miyazaki Y, Takata K, Wakabayashi T, 他	総合周産期母子医療センター	Clinical features and imaging findings of low-grade endometrial stromal sarcoma: a retrospective case series-based analysis	Cureus. 2025 Mar (オンライン)	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
86	Miyazaki Y, Orisaka M, Fujita Y, 他	総合周産期母子医療センター	Steroidogenic differentiation of human amniotic membrane-derived mesenchymal stem cells into a progesterone-/androgen-producing cell lineage by SF-1 and an estrogen-producing cell lineage by WT1-KTS	Front Endocrinol (Lausanne). 2024 Sep; 15:1410433	Original Article
87	Miyazaki Y, Yamaguchi A, Nanbu H, 他	総合周産期母子医療センター	Low-Grade Uterine Adenosarcoma with Overexpression of MDM2 and CDK4 by Immunohistochemistry: A Case Report and Literature Review	Case Rep Oncol. 2024 Oct; 17(1):1229-1238	Original Article
88	Miyazaki Y, Hosokawa M, Kudo S, 他	総合周産期母子医療センター	Postpartum multiple vertebral fractures in a patient with osteogenesis imperfecta type I: A case report and literature review	Case Rep Womens Health.2024 Nov (オンライン)	Case report
89	Matsumoto K, Hamatani S, Kunisato Y, 他	子どものこころの発達研究センター	Components of cognitive-behavioural therapy for mitigating core symptoms in attention-deficit hyperactivity disorder: a systematic review and network meta-analysis	BMJ Ment. Health. 2024 Dec (オンライン)	Original Article
90	Hamatani S, Mizuno Y	子どものこころの発達研究センター	Fact-finding survey by systematic review of active support groups accepting people with eating disorders in Japan	PCN Rep. 2024 Apr (オンライン)	Others
91	Hamatani S, Mizuno Y	子どものこころの発達研究センター	Field survey of support groups for people with neurodevelopmental disorders in Japan	PCN Rep. 2024 Nov (オンライン)	Letter
92	Negoro Y, Maeda T, Igarashi H, 他	薬剤部	Dexamethasone is non-inferior to antihistamine plus dexamethasone premedication in preventing ramucirumab plus nab-paclitaxel infusion-related reactions in gastric cancer: a multicenter retrospective study	Support Care Cancer. 2024 Oct; 32(10):704	Original Article
93	Sakashita M, Takata N, Okamoto M, 他	医学研究支援センター	Cybersickness Associated with Participating in an International Virtual Reality-Style Conference	Annals of Otorhinolaryngology Head and Neck Surgery. 2024 Oct;2024(2):1-14	Original Article
94	Tsubaki T, Kodaka E, Kitano Y, 他	がん診療推進センター	Effective Pain Management of Postherpetic Neuralgia Using a Combination of Analgesics and conservative measures	Cureus. 2024 Nov (オンライン)	Case report
95	Tsubaki T, Morikawa M, Goi T, 他	がん診療推進センター	Acute Mental Disorder Caused by Vitamin B12 Deficiency Eight Years After Total Gastrectomy	Cureus. 2024 Sep (オンライン)	Case report
96	Tsubaki T, Kodama M, Taketou Y, 他	がん診療推進センター	Phantom Limb Pain Improvement Post Right Lower Extremity Amputation With a Liner-type Prosthesis and Pharmacotherapy Combination: A Case Report	Pain Med Case Rep. 2024 Apr; 8(3):109-113	Case report
97	Zenimaru Y, Harada N	教育支援センター	Regulation of glucose and energy metabolism through actions of glucagon-like peptide-1 and glucose-dependent insulinotropic polypeptide	J Diabetes Investig. 2024 Dec; 15(12):1725-1726	Review
98	Okazawa H, Nogami M, Ishida S, 他	高エネルギー医学研究センター	PET/MRI multimodality imaging to evaluate changes in glymphatic system function and biomarkers of Alzheimer's disease	Sci Rep. 2024 May; 14(1):12310	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
99	Ikeda H, Hasegawa K, Uzui H, 他	心臓血管病先進 治療学講座	Characteristics of incident coronary artery disease in patients undergoing atrial fibrillation ablation	Int Heart J. 2025 Jan; 66(2):220-225	Original Article
100	Kataoka T, Morishita T, Uzui H, 他	不整脈・心不全先端 医療講座	Very short-term effects of a single dose of a proprotein convertase subtilisin/kexin 9 inhibitor before percutaneous coronary intervention: A single-arm study	Atherosclerosis. 2024 Dec; 399:118581	Original Article
101	Tsuji T, Hasegawa K, Tada H	不整脈・心不全先端 医療講座	Left atrial diverticulum as a rare but possible origin of a sustained atrial tachycardia: A case report	Eur Heart J. 2024 Aug; 45(29):2679	Case report
102	Murayama K, Tanaka T, Ishimoto T, 他	地域プライマリケア 講座	A case of portal vein gas due to accidental ingestion of hydrogen peroxide: the importance of performing ultrasound examinations over time	J Me Ultrason. 2024 Oct; 51(4):673-674	Case report
103	Niida Y, Onishi H, Ohama H, 他	地域医療推進講座	Individualized Nutritional Management Using Dishcook Improves Nutrition Status Markers in Patients with Intellectual Disability	J Nut Sci Vitaminol. 2024 Aug; 70(4):352-358	Original Article
104	Niida Y, Onishi H, Okamoto T, 他	地域医療推進講座	How common is sarcopenia associated with frailty? Diagnosis using the Kihon Checklist	J Med Invest. 2025 Feb; 72(1):139-147	Original Article
105	Hamano T, Kamisawa T, Sanada S, 他	地域高度医療推進 講座	Muscle magnetic resonance imaging findings in patients with idiopathic inflammatory myopathies	Clin Exp Neuroimmunol. 2025 Jan; 16(1):72-83	Original Article
106	Tanaka Y, Hayashi K, Kawahara E, 他	感染症学講座	Bilateral adrenal hemorrhage and hemophagocytosis in the reticuloendothelial system caused by Escherichia coli in a young woman: an autopsy case	Front Med(Lausanne). 2025 Mar; 12:1496961	Case report
107	Tanaka Y, Mitsui M, Asahi N, 他	感染症学講座	Evaluation of an automated rapid plasma reagin test of serum and cerebrospinal fluid for monitoring neurosyphilis treatment: A case report	J Infect Chemother. 2025 Feb; 31(2):102518	Case report

計107件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	⓪・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	⓪・無
・ 手順書の主な内容 「福井大学医学系研究実施の手順書」 (倫理審査申請から承認、研究の実施までの流れ、倫理審査申請書類の作成について、倫理審査の申請から委員会審査、承認まで、研究計画の実施状況報告及び終了(中止)報告について、重篤な有害事象及び不具合への対応等)	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 10 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	⓪・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	⓪・無
・ 規定の主な内容 「福井大学における臨床研究に係る利益相反管理規程」 (委員会の設置、組織、申告書の提出等、審査の方法、審査結果の報告、指導等)	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 8 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 ① 人を対象とする医学系研究を実施するために必要な基礎知識 ② 倫理指針改定の要件と医学研究を実施する際の注意点	

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各領域（診療科）において、専門研修プログラムを有し、修練目標・研修方略等が掲げられた詳細なカリキュラムに沿って研修し、それぞれの専門医取得を目指す。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数 134 人

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山内 高弘	血液・腫瘍内科	教授	36年	
酒巻 一平	感染症・膠原病内科	教授	31年	
中本 安成	消化器内科	教授	36年	
西山 康裕	脳神経内科	教授	29年	
早稲田 優子	呼吸器内科	教授	26年	
原田 範雄	内分泌・代謝内科	教授	29年	
遠山 直志	腎臓内科	教授	21年	
夢田 浩	循環器内科	教授	39年	
五井 孝憲	消化器外科	教授	36年	
前田 浩幸	乳腺・内分泌外科	准教授	36年	
福井 伸哉	心臓血管外科	教授	27年	
佐々木 正人	呼吸器外科	准教授	37年	
寺田 直樹	泌尿器科	教授	27年	
長谷川 稔	皮膚科	教授	34年	
中井 國博	形成外科	教授	30年	
松峯 昭彦	整形外科	教授	39年	
中嶋 秀明	リハビリテーション科	准教授	22年	
稲谷 大	眼科	教授	30年	
藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	39年	
吉村 仁志	歯科口腔外科	教授	26年	
安富 素子	小児科	講師	29年	
吉田 好雄	産科婦人科	教授	37年	
小坂 浩隆	神経科精神科	教授	27年	
菊田 健一郎	脳神経外科	教授	34年	
松木 悠佳	麻酔科蘇生科	教授	22年	
辻川 哲也	放射線科	教授	26年	
林 寛之	救急科	教授	39年	
今村 好章	病理診断科	准教授	39年	
遠山 直志	検査部	教授	21年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

【臨床検査部門】

- ・研修の主な内容
各領域のトピックス、担当部門での問題点など、最新の話題やリスクに関して
- ・研修の期間・実施回数
月1～2回
- ・研修の参加人数
検査部スタッフ 30名前後/回

【放射線部門】

- ・研修の主な内容
MRI検査を安全に実施するために必要な知識及び検査時に注意する事項
- ・研修の期間・実施回数
5月9日、5月16日
- ・研修の参加人数
新任看護師 61名

【リハビリテーション部門】

- ・研修の主な内容
ICUにおける早期リハビリテーション
- ・研修の期間・実施回数
5月8日～7月21日の期間中 11回
- ・研修の参加人数
ICU研修中の2年目看護師 4～5名/回

- ・研修の主な内容
高齢（消化器等）がん患者に対するリハビリテーション
- ・研修の期間・実施回数
1月7日
- ・研修の参加人数
病棟看護師 10名

【臨床工学部門】

- ・研修の主な内容
医療機器の安全使用・管理に関する研修
- ・研修の期間・実施回数
令和6年度中 97回
- ・研修の参加人数
コメディカル、看護師等の医療従事者 延べ4,443名

【看護部】

- ・研修の主な内容
看護技術トレーニング及びシミュレーショントレーニング
- ・研修の期間・実施回数
4月3日～12月6日の期間中 27回
- ・研修の参加人数
新規採用看護師 53名/回

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

【臨床検査部門】

- ・研修の主な内容
検査部、輸血部、病理部で取得したISO15189:2012認定維持のための品質マネジメントシステム、業務プロセスと手順、臨床検査情報システム、安全衛生（感染を含む）、倫理、患者情報の守秘義務の6項目について学ぶ
- ・研修の期間・実施回数
年間研修の中から各受講者が選択受講（最低2項目以上）
- ・研修の参加人数
検査部、輸血部、病理部の臨床検査技師 44名

【看護部】

- ・研修の主な内容
新任看護師長、副看護師長、主任看護師対象管理研修
- ・研修の期間・実施回数
3月17日、3月18日、3月21日、3月26日
- ・研修の参加人数
新任看護師長、副看護師長、主任看護師 12名/回

- ・研修の主な内容
副看護師長、主任看護師研修（PNS監査、リフレクション研修）
- ・研修の期間・実施回数
PNS監査：7月29日～8月13日の期間中 8回、11月25日～12月6日の期間中 7回
リフレクション研修：1月10日、1月17日、1月24日、1月29日
- ・研修の参加人数
副看護師長 58名、主任看護師 14名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

【リハビリテーション部門】

- ・研修の主な内容
感染対策管理認定看護師教育
- ・研修の期間・実施回数
10月21日～11月29日
- ・研修の参加人数
外部施設研修生 3名

【看護部】

- ・研修の主な内容
看護技術トレーニング及びシミュレーショントレーニング
- ・研修の期間・実施回数
4月3日～12月6日の期間中 27回
- ・研修の参加人数
院外施設の新規採用看護師 延べ301名

- ・研修の主な内容
認定看護管理者教育課程サードレベル
- ・研修の期間・実施回数
11月26日
- ・研修の参加人数
院外の看護管理者 1名

- ・研修の主な内容
看護管理者能力育成研修（他施設シャドウ研修）
- ・研修の期間・実施回数
11月11日、11月14日
- ・研修の参加人数
院外の看護管理者 7名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
管理責任者氏名	医学部附属病院長 藤枝 重治	
管理担当者氏名	総務課長 三橋 宏幸	経営企画課長 青池 正幸
	診療情報管理部長 山内 高弘	医療安全管理部長 森岡 浩一
	感染制御部長 酒巻 一平	副薬剤部長 塚本 仁
	放射線部長 辻川 哲也	ME 機器管理部長 石田 健太郎

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	事項 規則第二十一条の三第二項に掲げる	病院日誌	病院部総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		看護記録	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		検査所見記録	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		エックス線写真	各診療科
		紹介状	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
病院の管理及び運営に関する諸記録	事項 規則第二十一条の三第三	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事労務課
		高度の医療の提供の実績	医学研究支援センター
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学研究支援センター
		高度の医療の研修の実績	病院部総務課
		閲覧実績	病院部総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療支援課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院部総務課 病院部医療サービス課
掲げる事項 規則第一条の十一第一項に	掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

外来診療録は、1患者1ファイル、入院診療録は、1患者1入退院1ファイルでカルテ庫において中央管理している。電子診療録として、1患者1ファイルを診療情報管理部において管理している。なお、診療録の持ち出しは禁止している。

パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理している。

パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理している。

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医薬品安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医薬品安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医薬品安全管理部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医薬品安全管理部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	財務部経理課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME 機器管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME 機器管理部	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	財務部経理課			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	パソコンの電子ファイル及び紙媒体で管理している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医薬品安全管理部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理部	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医薬品安全管理部	
		監査委員会の設置状況	病院部総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部	
		職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		管理者が有する権限に関する状況	病院部総務課	
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	病院部総務課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院部総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ②. 現状
閲覧責任者氏名	医学部附属病院長 藤枝 重治
閲覧担当者氏名	病院部総務課長 三橋 宏幸
閲覧の求めに応じる場所	管理棟会議室
閲覧の手続の概要 1. 諸記録の閲覧の申請を担当部署に行う 2. 申請内容を確認の後、閲覧資料の準備を行う 3. 所定の場所(主に管理棟会議室)において閲覧	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療に係る安全管理の基本的考え方 (2) 医療に係る安全管理の体制 (3) 職員研修に関する基本方針 (4) 医療に係る安全確保の改善方針に関する基本方針 (5) 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。） (7) 相談への対応に関する基本方針 (8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理の指針に関すること (2) 医療安全管理の対策及び改善に関すること (3) 医療安全管理に係る指導及び助言に関すること (4) その他医療安全管理の重要事項に関すること 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <ol style="list-style-type: none"> (1) 全職員を対象に令和6年12月5日「特定機能病院における医療安全管理に関する研修」について研修会を行った。 (2) 全職員を対象に令和7年1月29日～令和7年3月31日「インフォームド・コンセント、RRS（Rapid Response System）」について研修会を行った。（e-learning実施） 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 各部署から報告されたオカレンスレポートは、医療安全管理部にて部署リスクマネージャー並びに現場から速やかに聴き取り調査・分析を行い、原因を究明している。さらに改善を要すると判断された重大な事例については、当該診療科長に是正措置を求め、改善策の有効性を確認・検討し、実施状況を検証している。 (2) 医療安全推進月間を定め、重要事項を決めて医療事故防止に取り組んでいる。 (3) 毎月3回程度実施部署を決め、院内パトロールを実施している。 (4) 各部門の管理担当者が参加するカンファレンスを週1回程度開催し、医療安全対策に係る取組の評価等を行っている。 (5) 日々院内を巡回し、各部門における医療安全対策の実施状況を把握・分析し、医療安全確保のために必要な業務改善のための具体的な対策を推進している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>(1) 院内感染対策に関する基本的な考え方</p> <p>(2) 院内感染対策に関する管理体制</p> <p>(3) 職員研修に関する基本方針</p> <p>(4) 感染症発生状況の報告に関する基本方針</p> <p>(5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針</p> <p>(6) 指針の閲覧に関する基本方針</p> <p>(7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 感染予防対策の確立に関すること</p> <p>(2) 感染予防の実施、監視及び指導に関すること</p> <p>(3) 感染源の調査に関すること</p> <p>(4) 感染予防に係る諸調査及び情報の収集に関すること</p> <p>(5) その他感染対策についての重要事項に関すること</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>(1) 全職員を対象に令和6年5月27日「感染症とワクチン」について研修会を行った。</p> <p>(2) 全職員を対象に令和6年9月2日「抗菌薬適正使用の推進」について研修会を行った。</p> <p>(3) 全職員を対象に令和6年12月26日「耐性菌を作らない、広げない」について研修会を行った。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 感染症発生状況は感染制御部に報告され、感染制御部のメンバーのうち医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されたICTが日々モニタリングを行っている。また、1週間に1回程度1ヶ月間で全病棟、患者に侵襲的な手術・検査を行う部署は2カ月で全部署を院内巡回し、現場確認を行っている。なお、内容により各部署における対策の確認が必要な場合は、感染制御部長より文書で改善を依頼し、各部署とのカンファレンスや現場のラウンド等で確認している。</p> <p>(2) 感染制御部員が実施場所を決め、ラウンドを実施している。</p> <p>(3) 部署のリンクナースはICNと連携し、各看護単位の感染対策上の問題点を抽出し、改善策を実施している。</p> <p>(4) ICNが日々細菌室情報をもとに当該部署を巡回し、感染対策の確認と改善指導を行っている。</p> <p>(5) 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されたASTが検査データや抗菌薬使用状況を確認し、日々、感染症治療の早期モニタリングと主治医へのフィードバック、抗菌薬の適正使用の推進を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	随時 e-Learning
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1. 薬物療法の適正化とポリファーマシー対策</p> <p>2. 免疫チェックポイント阻害薬で起こる副作用（irAE）とその対応・対策</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （○有・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の安全使用のための業務手順書の作成 ・ 医薬品の安全使用のための研修の実施 ・ 手順書の基づく業務実施状況の確認（各部署の自己点検） ・ 院内の医薬品使用状況の把握並びに安全性情報の収集・評価・必要な情報の周知 ・ 未承認薬等の使用の把握と必要性や妥当性に関する検討 ・ 未承認薬等の使用に関する情報の共有（院内への情報提供） 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （○有・無）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>○適応外使用事例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 声門下狭窄症に対するマイトマイシン眼科外用液用の使用 ・ 脳表へモジゲリン沈着症に対するデスフェラル注射用の使用 ・ 2次治療中に病勢進行を来した悪性胸膜注脾腫に対するロゼウス静注液の使用 <p>○未承認新規医薬品使用事例：</p> <p>なし （高リスク縦隔神経芽腫に対してTRETIVA（イソトレチノン）が申請されたが、新規医療評価委員会で承認されず、申請取り下げとなった）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PMDAメディナビ、SAFE-DI（商用データベースサービス）を活用した情報収集 ・ 医薬品使用状況の把握と適正使用推進を目的とした調査薬品レポートの活用 	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	○有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 103 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器の有効性・安全性に関する事項 ・ 医療機器の安全方法に関する事項 ・ 医療機器の保守点検に関する事項 ・ 医療機器の不具合が発生した場合の対応に関する事項 ・ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (○有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： <p>9品目の医療機器に対して、年間計画を策定し実施している。 9品目は次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人工心肺装置及び補助循環装置 2. 人工呼吸器 3. 血液浄化装置 4. 除細動装置 5. 閉鎖式保育器 6. CTエックス線装置 7. 診療用高エネルギー放射線発生装置 8. 診療用放射線照射装置 9. 磁気共鳴画像診断装置 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (○有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： <p>VitaloJAK[®] 咳モニター</p> ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>収集した安全情報は当該医療機器を使用する部署へ周知（必要に応じて改善処置）を行い、医療機器安全管理部会へ報告している。</p> 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格 (医師)・歯科医師)</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全担当の副病院長を医療安全管理責任者とし、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (10名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報室による国内外の医薬品情報の収集・整理 (PMDA メディナビの活用、SAFE-DI の活用、文献情報等)、調剤時の疑義照会記録のレビュー、あらかじめ定義した医薬品について医師の処方と共に薬剤部へ出力される「調査薬品レポート」を活用し要確認事項に漏れがないかを確認している。病棟薬剤師が、医薬品情報室から情報提供された内容について、医局、病棟等のカンファレンスの機会に直接説明を行っていることを確認している。</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>医薬品安全管理部会で承認した「使用承認」情報の共有、医局カンファレンス等で病棟薬剤師が知り得た情報の報告、処方薬の適応等に関する確認依頼により、対応が不十分な事例については、医師に対して必要な手続きの依頼を行うなど対応している。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (有) ・無)</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) ・無)</p> <p>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>・ 毎月定期的に全身麻酔下手術症例に関する IC 記載について遵守状況を確認している。</p> <p>・ 医療者側・患者側の同席者、患者家族の説明時の反応をカルテに記載するように指導している。</p>	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
<p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>日々診療録等の記載内容の確認を行っている。確認の結果指導が必要と判断された事項については、確認実施者から直接当該記録の記載者に連絡し、指導している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無
<p>・ 所属職員：専従（５）名、専任（２）名、兼任（１５）名</p> <p>うち医師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（５）名</p> <p>うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（１）名</p> <p>うち看護師：専従（２）名、専任（０）名、兼任（３）名</p> <p>(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務 ・ 報告されたオカレンスレポートの調査・分析 ・ 3b以上のオカレンスが発生した場合の診療録及びインフォームド・コンセントの確認、オカレンス審議委員会で用いられる資料の作成、並びに議事録の作成・保存 ・ オカレンス審議委員会で究明された原因及び改善策等の審議結果についての当該部署への指導・各部署リスクマネージャーへの支援、連絡調整 ・ 医療安全の確保のための対策の推進 ・ 職員の医療の安全に関する意識の向上の確認 ・ 手術時静脈血栓塞栓予防策実施、中心静脈カテーテル留置における合併症、静脈血栓塞栓予防行為が行われなかった入院患者の静脈血栓塞栓症のモニタリング実施 ・ 院内医療安全パトロールを実施し、医療安全の確認事項シートを用いて職員の医療安全の認識を確認している <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<p>・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（２件）、及び許可件数（１件）</p> <p>・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（(有)・無）</p> <p>・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（(有)・無）</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高難度新規医療技術を用いた医療の提供の適否決定に関すること ・ 高難度新規医療技術を用いた医療の提供後の確認に関すること ・ その他高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関すること <p>・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（(有)・無）</p> <p>・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（(有)・無）</p>	

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（40件）、及び許可件数（38件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否決定に関する事
 - ・当該未承認新規医薬品等を使用した症例についての確認に関する事
 - ・その他未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関する事
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 310 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 84 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - ・影響レベル 3b 以上のオカレンスレポート並びに死亡退院報告は、速やかに病院長に報告している。報告状況の確認として、死亡退院報告については、医療安全管理部が全ての死亡退院患者の診療記録を点検し、当該主治医からの報告状況を確認し、報告されていない場合には当該診療科に適切に報告するよう指導している。また、オカレンスレポートについては、多職種から報告されており、他部署で発生したオカレンスについても関わりのあった他部署からの報告があるため医療安全管理部で発生状況が把握でき、報告すべき職員が報告していない場合には、適切に報告するよう指導している。
 - ・部署リスクマネージャーに対して、オカレンス報告の意義、部門リスクマネージャーの責務について指導している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：筑波大学附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：防衛医科大学校病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
令和6年9月9日に実施

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
「患者相談窓口」を設置し、患者やその家族からの医療安全に関する相談に適切に応じる体制を確保している。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

全職員を対象に令和 6 年 12 月 5 日「特定機能病院における医療安全管理に関する研修」について研修会を行った。(e-learning 実施)

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

- ・ 管理者：令和 7 年 2 月 14 日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2024 年度特定機能病院管理者研修（継続・6 時間）」受講
- ・ 医療安全管理責任者：令和 6 年 12 月 9 日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2024 年度特定機能病院管理者研修（継続・6 時間）」受講
- ・ 医薬品安全管理責任者：令和 7 年 2 月 3 日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2024 年度特定機能病院管理者研修（継続・6 時間）」受講
- ・ 医療機器安全管理責任者：未受講（直近受講は、令和 5 年 12 月 4 日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2023 年度特定機能病院管理者研修（初回・13 時間）」）

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

品質 ISO に関する審査を、BSI グループジャパン株式会社より半年に一度受審し、認証を継続している。

最初の認証取得日 平成 15 年 9 月 10 日 最新の更新日 令和 7 年 9 月 17 日

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

福井大学医学部附属病院ホームページに掲載

・ 評価を踏まえ講じた措置

3 年ごとの更新審査及び半年ごとの継続審査を受審し、提起された改善事項等について随時是正処置を行っている。その中で軽微な不適合として提起された事項に関しては、審査後 1 ヶ月以内に審査機関に是正処置計画書を提出し、承認を受けた上で是正処置を行っている。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理業務に関する知見・経験 医師免許を有する臨床研修等修了医師であり、かつ、特定機能病院における医療安全に関わる業務の経験と患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有している者 2. 病院の管理運営に必要な能力 診療、教育、研究という大学病院のミッションに精通し、医療機関の管理者としてリスク対応を含めた高いマネジメント能力を有するとともに、多職種で構成される病院職員の意見に耳を傾けつつ、迅速な意思決定を行う優れたリーダーシップを発揮できる者 3. 病院の経営に必要な能力 医療を取り巻く様々な外的変化に適切に対応し、医学部附属病院の安定的財政基盤を確立して、病院経営を担う能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 福井大学医学部附属病院ホームページに掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
岡沢 秀彦	福井大学理事	○	病院長候補者選考会議細則第3条第1項第1号に基づき学長が指名する理事	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
米沢 晋	福井大学理事		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第1号に基づき学長が指名する理事	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
菊田 健一郎	福井大学医学部長		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第2号に基づく役職指定者	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無

飯野 哲	福井大学医学科(共通系・基礎系)教授		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第3号に基づき選出	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
山内 高弘	福井大学医学科(臨床系)教授		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第4号に基づき選出	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
四谷 淳子	福井大学看護学科教授		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第5号に基づき選出	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
諏訪 万恵	福井大学看護部長		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第6号に基づく役職指定者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
池端 幸彦	福井県医師会長		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第7号に基づき学長が委嘱する学外の有識者 (医学・医療について豊富な経験と高い識見を有する者)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
吉田 真士	株式会社福井新聞社 代表取締役社長		病院長候補者選考会議細則第3条第1項第7号に基づき学長が委嘱する学外の有識者 (福井県の諸事情や課題等に精通し、報道関係者として、豊富な経験と高い識見を有する者)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無		
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院に関する規則等、決算及び予算配分、経営方針、概算要求事項、診療教授等の称号付与 ・審議の概要の従業者への周知状況 審議の概要は構成員及び陪席者から、所属職員等に周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無) ・公表の方法 福井大学規則集 (公開用) ホームページに掲載 ・外部有識者からの意見聴取の有無 (有・(無)) 			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
藤枝 重治	○	医師	病院長
山内 高弘 ほか 31 名		医師	診療科長等
塚本 仁		薬剤師	薬剤部副部長
諏訪 万恵		看護師	看護部長
清水 隆行		事務職員	病院部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（・無）
- ・ 公表の方法
福井大学規程集（公開用）ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容
 - 福井大学医学部附属病院規程
第3条2項 病院長は、病院の管理運営をつかさどり、所属職員を監督する。
 - 福井大学医学部附属病院副病院長に関する要項
第4条 副病院長は、病院運営委員会の構成員の中から病院長が指名し、
学長が任命する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長は、病院長の職務を補佐する。
副病院長の担当：医療安全、教育、研究、診療、経営、看護
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
第6回病院長塾（2025. 2. 14 主催：国立大学病院長会議）

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有)・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療安全管理部及び医療安全管理委員会の業務状況について、病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を行う。 ・ 必要に応じて、監査の結果に基づき、病院長に対し医療安全管理についての是正措置を講じるよう意見を表明する。 ・ 監査結果及び意見表明を公表する。 <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>福井大学医学部附属病院ホームページに掲載</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
高村 博之	金沢医科大学 病院医療安全 部長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
安川 繁博	福井県医師会 副会長		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・(無)	1
吉川 奈奈	杉原・きっかわ 法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・(無)	1
草桶 秀夫	前福井工業大 学教授		医療を受ける者の立場から意見を述べるができる者	有・(無)	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

内部統制システム運用規則に基づき、内部統制システムの整備及び運用を推進し、その状況を把握し、重大な問題が発生した場合又は発生のおそれがある場合には、必要な緊急措置及び是正措置を執る。

・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法

福井大学規則集（公開用）ホームページに掲載

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
 - (役員会)
 - 毎回、病院長が出席し、病院の経営状況や病院の取組等を説明している。
 - (病院運営諮問会議)
 - 病院長の諮問に応じて、経営等に関する病院運営の重要事項、病院の診療、教育及び研究に関する重要事項について審議し、病院長に対して助言又は勧告を行う。
- ・ 会議体の実施状況 (役員会：年 11 回、病院運営諮問会議：年 2 回)
- ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 (有 ・ 無)
 - (役員会：年 11 回、病院運営諮問会議：年 2 回)
- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法
 - 福井大学規則集 (公開用) ホームページに掲載

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：福井大学医学部附属病院運営諮問会議

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
岡沢 秀彦	福井大学理事	○	
塩崎 英司	一般社団法人国立大学病院長 会議 理事 (事務局長)		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
池内 昭彦	福井放送株式会社 代表取締役社長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
池端 幸彦	福井県医師会長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
江守 康昌	日華化学株式会社 代表取締役社長執行役員		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
高山 一夫	京都橘大学経済学部 教授		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
田中 敏弘	滋賀医科大学附属病院 病院長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
松村 理司	洛和会ヘルスケアシステム 洛和会本部 参与 兼 学校法人 洛和学園 洛和会京都厚生学校 学校長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無
山口 明夫	福井医療大学 学長		有・ <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 必修研修会で周知している。オカレンス報告システムのトップページに、情報提供受付窓口を掲載している。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	①・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <ol style="list-style-type: none">1. 病院公式ホームページの公開2. 情報誌「フロンティア」の発行・地域医療機関等への配布（2回/年）、病院内での配布（随時）3. 「病院のご案内」の発行・地域医療機関への配付（1回/年）4. 福井街角放送による「福大病院まちかどラジオ」の番組内（約10分）で病院スタッフが医療情報を発信（2回/月）5. 地域医療連携部看護師、ソーシャルワーカーが、各診療科における得意な診療のリーフレット等を持参し、福井県内及び石川県加賀地区の医療機関を訪問し、本院の情報提供を行っている。	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	①・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <ol style="list-style-type: none">1. がん診療推進センター（各診療科）がん診療推進センターの実施2. 歯科の周術期における口腔機能の管理（歯科口腔外科と各診療科）3. 精神障害者における身体合併症の管理（神経科精神科と各診療科）4. 脊椎脊髄外科ユニット外来の設置（脳神経外科と整形外科）5. 小児外科の設置（心臓血管外科と小児科）6. フットケアチームの設置（形成外科、心臓血管外科、リハビリテーション部など）7. 福井県脳卒中・心臓病等総合支援センターの設置（脳神経外科、循環器内科など）	